

1



Silent Signal Tokyo  
沈黙格差レーダー

# Silent Signal Tokyo

## 沈黙格差レーダー

相談件数を疑え。相談できない子どもを可視化する東京へ

言えなくても、見逃さない。

聖学院高校 2年 神崎 一真 五井 泰地 伊藤 史温 沼尻 祥宏

# 現状 | 『相談できない子』が存在する





データが示す、見えにくい“沈黙格差”の実態

## 誰にも相談しようと思わない子どもがいる

気分が落ち込んだときに  
『誰にも相談したり、助けてもらったり  
しようと思わない』10~14歳



## 相談しようと思わない理由（上位）

-  相談しても  
解決できないと思うから **42.7%**
-  自分ひとりで  
解決すべきだと思  
うから **38.7%**
-  誰にも  
知られたくない  
ことだから **38.7%**
-  相手にうまく  
伝えられないから **33.3%**

子どもたちの相談窓口は  
多様化しています

-  **電話相談**  
電話でつながる
-  **SNS相談**  
チャットで気軽に相談
-  **相談窓口**  
学校・地域の窓口など

**相談件数 = 『相談できた人数』 → 相談件数 ≠ 困っている子どもの総数**



# なぜ『沈黙格差』が起きるのか

相談したくても、できない子どもがいる現実





## 現在の支援構造



「相談できた子」しか支援につながらない

## しかし、実際は…

相談したくても、できない理由

- 1  人に話せない・話しづらい  
うまく言葉にできない、誰に話せばいいかわからない
- 2  自分でも整理できない  
何がつらいのか、よくわからない
- 3  知られたくない  
周りに知られることへの不安や恥ずかしさ
- 4  相談しても変わらないと思ってしまう  
過去の経験から「どうせ無理」と感じる
- 5  自分ひとりで解決すべきだと思う  
迷惑をかけたくない、弱音を吐けない

## 教員側の課題



見える範囲が広い  
1クラスあたり約35人※  
一人ひとりの状況を  
継続的に把握するのは困難



課題が多様  
不登校・家庭・学業・  
人間関係など、課題が多岐  
にわたり、専門対応が必要



静かな変化は見えにくい  
表情・言動・行動の小さな  
変化は日常の中で埋もれる

※文部科学省「学校基本調査（令和4年度）」より



相談前の「見えにくい変化」を見つける仕組みが不足している

学校生活データの“変化”をAIが検知し、支援が必要な子に大人が早く気づく仕組み

### 活用する学校生活データ（例）



#### 出欠・遅刻

欠席数や遅刻  
遅刻の傾向



#### 課題提出

提出率の低下/  
未提出の増加



#### 記述量

書ける字数や  
文章量減少



#### 進路希望

未設定・変更の  
増加



#### アンケート

回答内容・頻度  
の変化

### 対象（ターゲット）



#### 主な対象：都内の中高生

支援の手間を負担をしながらも、  
自信回復につながらない小さな変化・  
心の違和感・家庭・経済・健康・  
孤立・心理的な領域など



#### 支援する大人たち：

教員・スクールカウンセラー・  
外部相談員・教育委員会



他人との比較ではなく、その子自身の過去と比較する



学校生活データ



AIが変化を検知



支援確認サイン



大人が確認・声かけ・  
支援へ接続

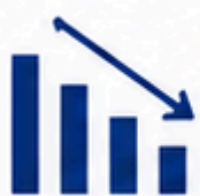


ポイント：『診断・評価』ではなく、『気づき』と『支援接続』を支援

## データの変化をAIが検知し、支援につなげる



### AIが提示するサインの例



活動量の低下

- ・提出物の減少
- ・出席の変化など



継続的な変化

- ・連続する変化
- ・持続性を重視



変化の組み合わせ

- ・複数の要素が重なるサイン

### 生徒に配慮する声かけ例



最近、少し忙しそうだけど、無理していないかな？



何かあったら、いつでも話せるよ。



最近、ちょっと様子が気になっていて、声をかけた。話してもいい？

### 大切にする姿勢



責めない



決めつけない



本人のペースを尊重

データとAIで「気づく」 → 人が「つながる」 → 子どもが「安心できる」支援へ

# デモアプリ

Silent Signal Tokyo  
沈黙格差レーダー

ホーム ダッシュボード 倫理設計

教育支援システム デモ

## Silent Signal Tokyo

沈黙格差レーダー

言えなくても、見逃さない。

「助けて」が言えない子どもの小さな変化を、データと支援者の目で捉える。先生が気づき、そっと近づくための仕組みです。

先生用ダッシュボードへ

最新の支援サイン検知

**支援サイン検知: 5名に変化があります**

佐藤 悠真 伊藤 結衣 山田 花音 斎藤 凜 岡田 彩乃

課題提出率の低下・遅刻増加・進路希望の変化など、複数の指標で変化が検知されています。

確認する →

Silent Signal Tokyo  
沈黙格差レーダー

ホーム ダッシュボード 倫理設計

在籍生徒数 **30名**  
全クラス合計

支援サイン検知 **5名**  
声かけ推奨

経過観察 **5名**  
変化あり

本日確認 **20名**  
確認済み

最終更新 **09:30**  
2026-05-25

絞り込み 名前で検索... 全て 支援優先 経過観察 安定

名前	支援優先度	提出率	出席率	遅刻	最終確認	最近の変化
佐藤 悠真	支援優先	45%	82%	5回	2026-05-24	課題提出率の急激な低下、...
伊藤 結衣	支援優先	60%	85%	4回	2026-05-22	課題提出率の低下と遅刻の...
山田 花音	支援優先	50%	80%	6回	2026-05-22	記述量の急減と遅刻回数...
斎藤 凜	支援優先	55%	83%	5回	2026-05-21	提出率の急落と進路希望...
岡田 彩乃	支援優先	48%	79%	7回	2026-05-21	出席・提出率の同時低下
山本 美咲	経過観察	72%	90%	2回	2026-05-24	記述量の緩やかな減少
井上 さくら	経過観察	70%	89%	2回	2026-05-24	提出率の小幅な低下

佐藤 悠真 支援優先  
2年A組

支援ステータス  
未確認 声かけ済み 面談予定 SC連携済み 支援継続中

比較するのは、他人ではなく、過去の本人。

AIが気づいた変化 信頼性 88%

- 課題提出率 -24%
- 記述量 -40%
- 遅刻回数 +3回
- 進路希望 未定化

出席状況 82% 課題提出率 45%

遅刻回数 5回 進路希望 未定

—— 「相談DX」ではなく、未接続の子どもに支援を届ける「支援接続庫DX」へ ——

### 従来の支援（現状）



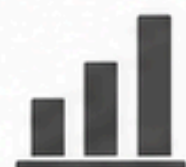
#### 相談待ち

子どもが相談するのを待つ受け身の仕組み



#### 受け身の把握

相談や通報に来た子からの対応が中心



#### 相談できた子に偏る

顕在化した子どもへの支援に偏る



#### 個別最適化が難しい

個々の状況を広く把握し、見通しが難しい



#### 件数中心

相談件数・対応件数を中心に評価



### 本提案 | Silent Signal Tokyo



#### 変化の検知

データの小さな変化から、早期に気づく



#### 相談前の気づき

相談前のサイン・環境要因まで、広く早く把握



#### 未接続リスク把握

未接続（つながっていない）子どもを可視化



#### AIが気づきを補助

AIが要因抽出・分析・優先順位づけを支援



#### データで学校・地域を支える

根拠データで方針・予算・実行を支援し、支援が循環

「相談待ち」から、「気づき」と「支援接続」へ

# 倫理・プライバシーへの徹底配慮

——— 子どもの権利を最優先に、信頼される仕組みとして運用する ———



AIは支援のきっかけをつくる補助であり、最終判断は必ず人が行います。

子どもの尊厳と権利を守るため、以下の原則を徹底します。

## 1. データの厳重管理



- 匿名化・暗号化を徹底
- アクセス権限を最小化
- 保存期間・目的外利用の禁止
- 外部提供の制限と合意管理

## 2. 不利益利用の禁止



- 成績評価・進路選別に利用しない
- 広告や営業・営利の目的で使わない
- 差別・不当な不利益を招く使わない
- 子どもに不利益を生じさせない

## 3. 人間による判断



- AIが「気づきの補助」に限定
- 最終判断は教員・専門職が実施
- 複数の視点で確認する体制を確保
- 支援方針は対話を通じて決定

## 4. 本人・保護者の同意



- 利用目的を丁寧に説明
- 本人・保護者の同意を取得
- いつでも同意の撤回が可能
- 定期的に運用状況を公開



子どもの権利を守ることが、支援の効果を高め、社会の信頼につながる。

私たちは、透明性と説明責任を大切にし、子ども・保護者・学校・地域が安心して協力できる仕組みを目指します。

# 御見積書

SilentSignal Tokyo開発プロジェクト

5～10校 実証運用版アプリ開発

見積番号	SST-DEV-2026-001	発行日	2026年6月11日
対象	Silent Signal Tokyo - 沈黙格差レーダー	有効期限	発行日より30日
見積区分	概算見積 / 税別・税込併記	納期目安	契約後 7～9か月

初年度開発費 税別	107,730,000円
消費税 10%	10,770,000円
税込合計	118,500,000円
推奨予算枠	税別 8,700万円～1.32億円 / 中心値 約1.08億円
年間運用保守費	税別 3,000万円～4,500万円 / 年

本見積は、Base44デモを本番アプリへ発展させ、学校生活データを安全に取り込み、AIが小さな変化を支援サインとして提示し、教員・スクールカウンセラー等の大人が確認して支援につなぐWebアプリを対象とします。AI単独判断・診断・成績評価への利用は対象外です。

見積の要点: 画面を作るだけなら数百万円規模でも可能ですが、未成年の学校生活データ、支援記録、同意、監査ログ、5～10校の実証導入まで含めると、初年度の現実的な開発費は約1.08億円です。

# 期待される効果・成功指標

子ども・学校・行政にそれぞれの変化を生み出す

## 子どもへの効果



- 早期発見・早期支援につながる
- 孤立や深刻化を防ぐ
- 安心して相談しやすくなる

## 学校への効果



- 見守りの質向上
- 支援優先度がつけやすくなる
- 情報共有しやすい

## 行政への効果



- 相談未接続リスクの可視化
- 支援資源の重点配置
- 政策改善への活用

## 成功指標（KPI例）

	支援接続までの時間	
	未接続リスク把握件数	
	相談・支援接続率	
	教員の見守り負担感	
	生徒・保護者満足度	



一人ひとりの『気づき』が、子どもたちの未来を変える。

# まとめ | 言えなくても、見逃さない

—— Silent Signal Tokyoが目指すもの ——

相談できる子だけを支援する東京から、  
言えない子にも近づく東京へ。

## 1 支援の起点を 「相談待ち」から「気づき」へ



見えない変化を可視化し、  
早期発見につなげることで、  
SOSを出す前の子どもにも  
支援の手を届けます。

## 2 AIは診断ではなく、 支援接続の補助へ



人の判断を支え、  
適切な専門的支援へ  
つなげることを目指します。

## 3 声を上げられない子にも 近づく東京へ



すべての子どもが安心して  
学べる環境をつくり、  
誰一人取り残さない社会を実現します。

## 支援は、声を上げられる人だけのものではない。

Silent Signal Tokyoは、データとAIの力で「見えない子に、支援を届ける」未来を切り拓きます。

### 参考文献

- こども家庭庁「こどもの悩みに寄り添える社会に向けて(中間報告)」
- 内閣府「教員1人あたりの生徒数（公立中学校）（2024年）（全国）」
- 文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（令和6年度）」

※本スライドの情報は一般的な公的資料に基づくものであり、  
特定の個人・団体を対象とするものではありません。

An aerial, grayscale photograph of a dense urban landscape, likely Tokyo, with the Tokyo Skytree visible in the background. Overlaid on the image is the text '4.90%' in a large, bold, black sans-serif font. The percentage sign is stylized with a diagonal slash.

**4.90%**



# 相談したいのにできない 子供の数

4.9%



落ち込んだ時  
誰にも相談しようと思わない10~14歳の子供  
(こども家庭庁)

4.9%



解決しないと思う

落ち込んだ時  
誰にも相談しようと思わない10~14歳の子供  
(こども家庭庁)

4.9%



解決しないと思う



知られたくない

落ち込んだ時  
誰にも相談しようと思わない10~14歳の子供  
(こども家庭庁)

4.9%



落ち込んだ時  
誰にも相談しようと思わない10~14歳の子供  
(こども家庭庁)



解決しないと思う



知られたくない



うまく説明できない

54万人





# Silent Signal Tokyo

## ——沈黙格差レーダー——

相談できない子供を、可視化する東京へ

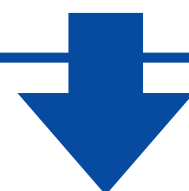
聖学院高校2年 神崎一真 五井泰地 伊藤史温 沼尻祥宏

相談できる子

相談できる子



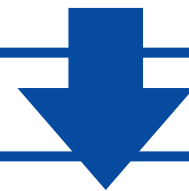
困る



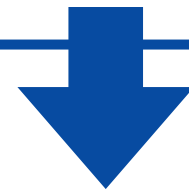
## 相談できる子



困る



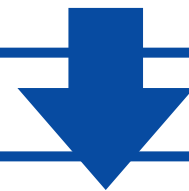
相談する



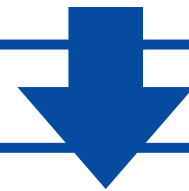
## 相談できる子



困る



相談する



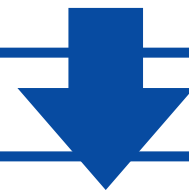
支援に繋がる

相談できる子

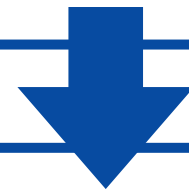
相談できない子



困る



相談する

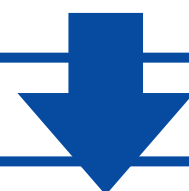


支援に繋がる

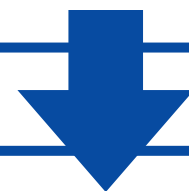
## 相談できる子



困る



相談する



支援に繋がる

## 相談できない子

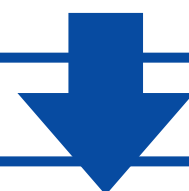


困る

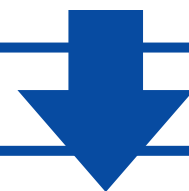
## 相談できる子



困る



相談する

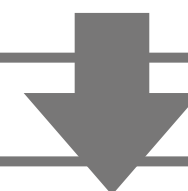


支援に繋がる

## 相談できない子



困る



相談しない

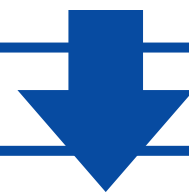
## 相談できる子



困る



相談する

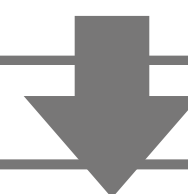


支援に繋がる

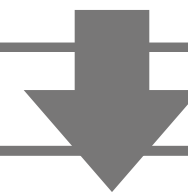
## 相談できない子



困る



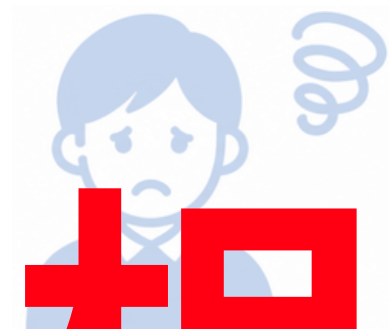
相談しない



支援に繋がらない

相談できる子

相談できない子



困る



困る

相談できた子だけが



相談する



相談しない

制度の中で見える



支援に繋がる



支援に繋がらない

# 既存の取り組み



そう だん  
**相談カード**  
ひとりでなやまず、そうだんしてみよう

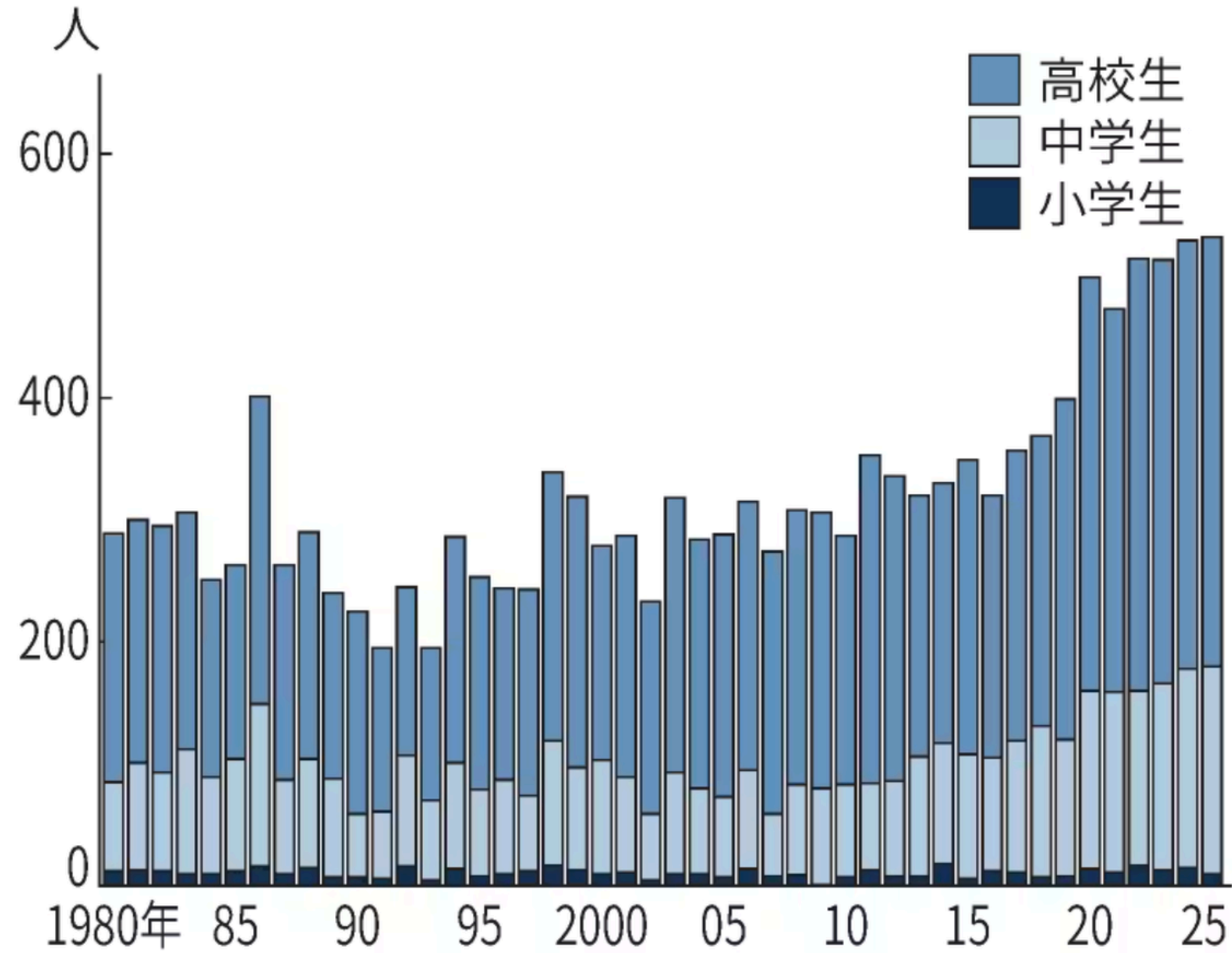
つらいとき、こまったとき、  
いつでも相談できます。



	<b>学校の先生・スクールカウンセラー</b> 学校の先生や、スクールカウンセラーに相談できます。	学校の連絡先 _____
	<b>24時間子どもSOSダイヤル</b> 困ったとき、いつでも電話で相談できます。	<b>0120-0-78310</b> (24時間対応・通話無料)
	<b>子どもの人権110番</b> いやなこと、こまっていることを相談できます。	<b>0120-007-110</b> (平日8:30~17:15)
	<b>チャイルドライン (18さいまで)</b> どんなことでも、いっしょに考えます。	<b>0120-99-7777</b> (毎日16:00~21:00)
	<b>SNS相談 (文部科学省)</b> LINEやWebで、年齢や名前を言わずに相談できます。	QRコードからアクセス ▶ 

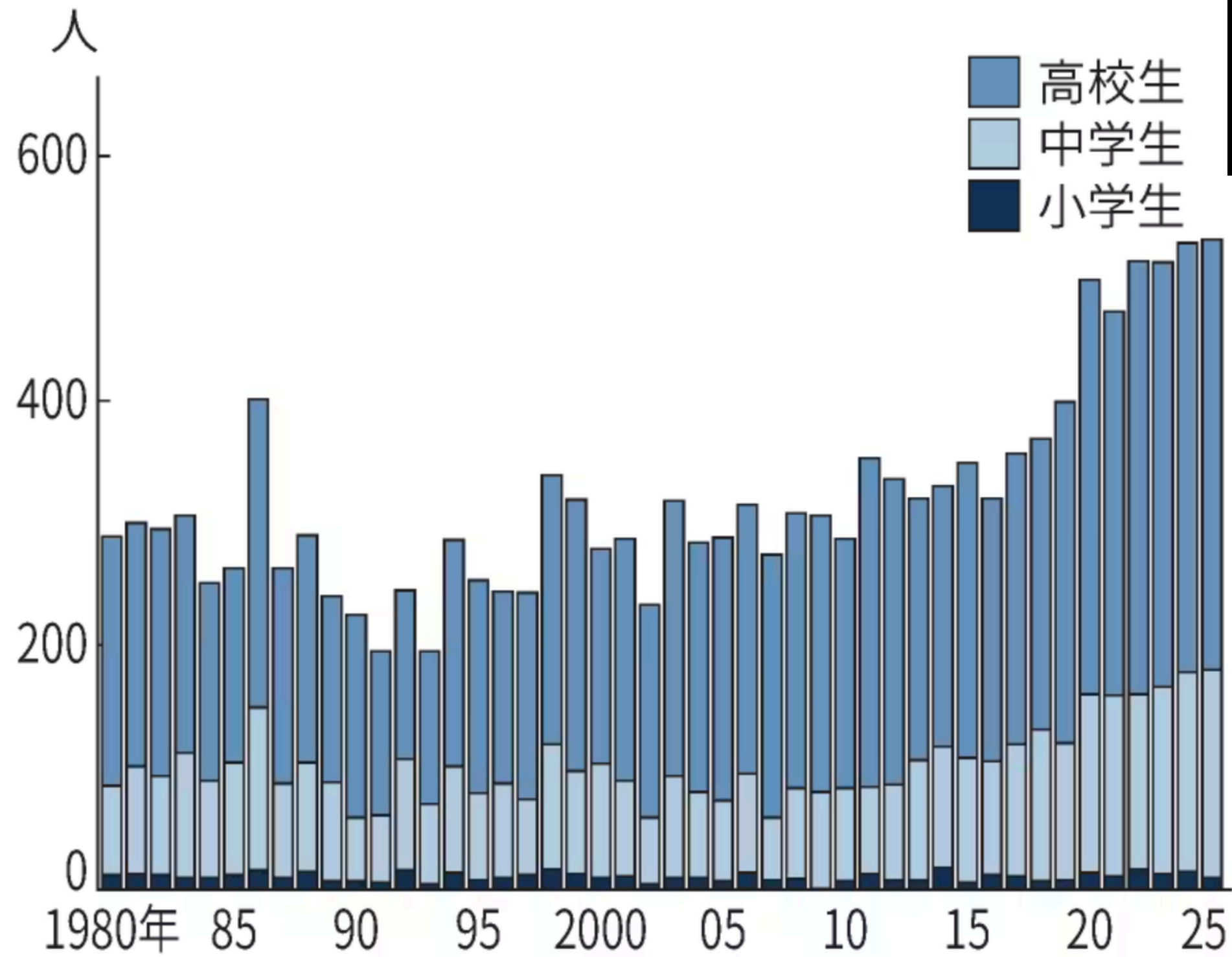
あなたは、ひとりじゃないよ。いつでも、だれかがあなたの味方です。

# 小中高生の自殺者数の推移



(注) 2025年は暫定値、厚生労働省資料を基に作成

# 小中高生の自殺者数の推移



532人

(注) 2025年は暫定値、厚生労働省資料を基に作成



**Silent Signal Tokyo**

# アプリの仕組み

---



記述量



課題提出



出欠

生徒ごとのデータ



# アプリの仕組み

---



記述量



課題提出

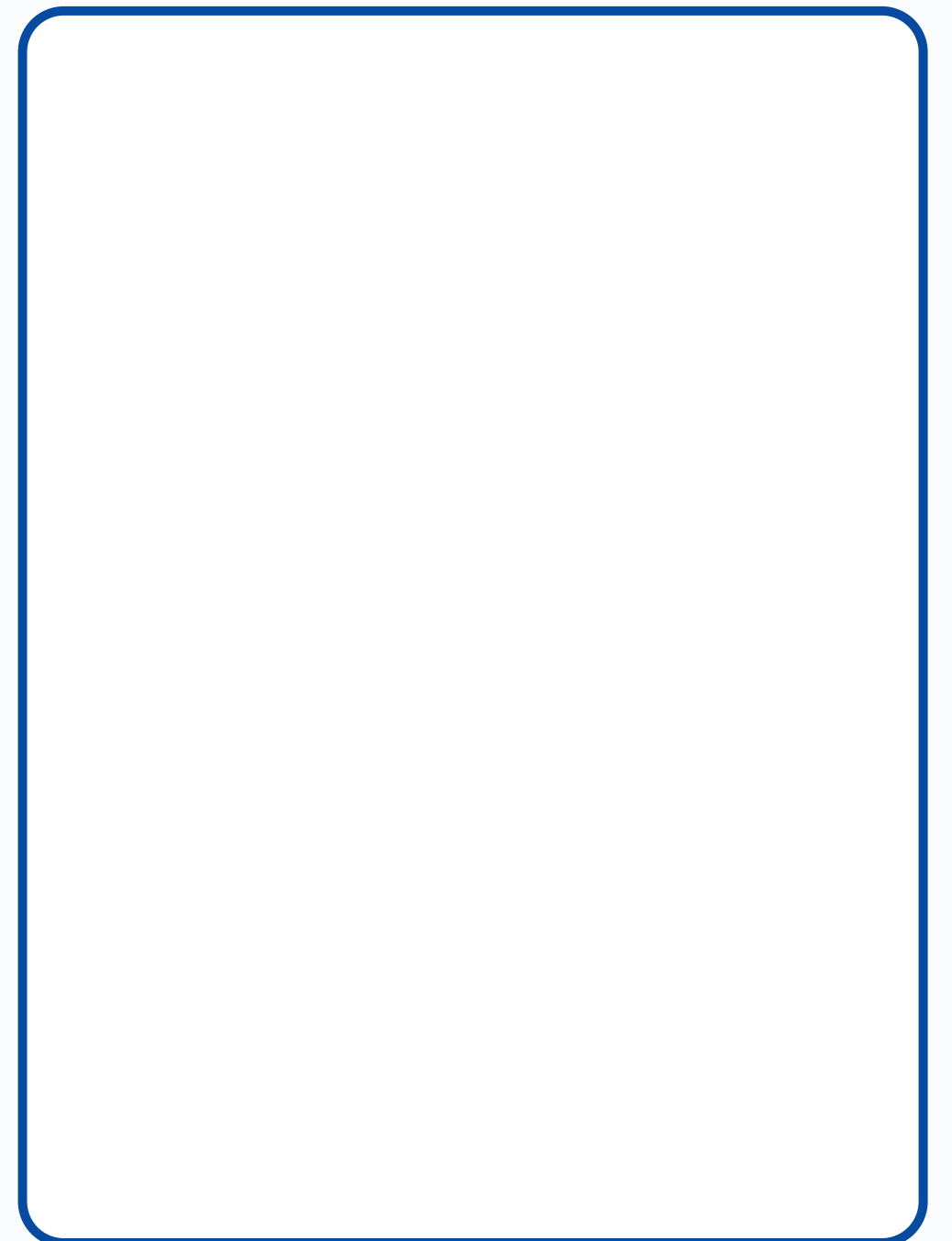


出欠

生徒ごとのデータ



学習データと照合  
傾向から確率計算



# アプリの仕組み

---



記述量



課題提出

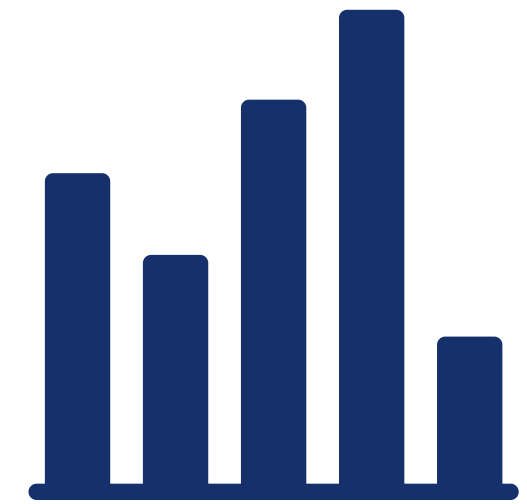


出欠

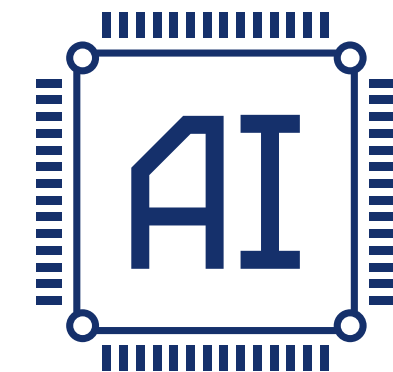
生徒ごとのデータ



学習データと照合  
傾向から確率計算



傾向を可視化



声掛け案を提案

# 倫理設計

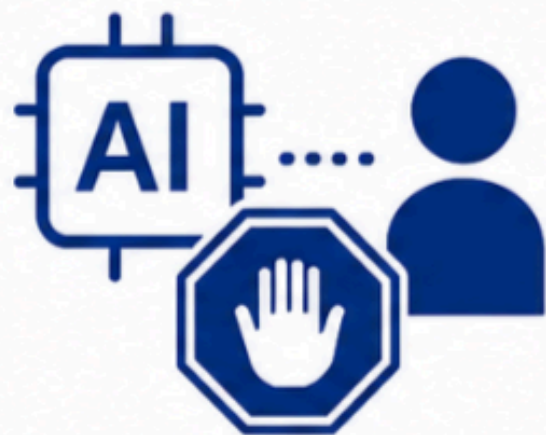
---



AIは診断しない



成績評価に使わない



AI単独判断禁止



最終判断は人間

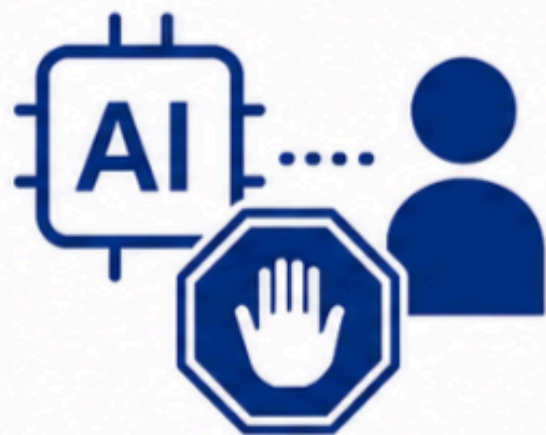
# 倫理設計



AIは診断しない



成績評価に使わない



AI単独判断禁止



最終判断は人間

使用しない



病歴



思想信条



家庭監視

# 実現までのステップ

---

STEP 1



5～10校ほどで試験

STEP 2

STEP 3

# 実現までのステップ

---

STEP 1



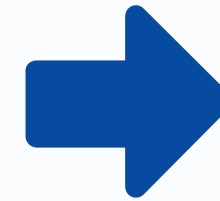
5～10校ほどで試験



STEP 2



効果・精度の検証



STEP 3

# 実現までのステップ

---

STEP 1



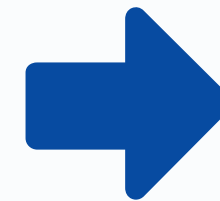
5～10校ほどで試験



STEP 2



効果・精度の検証



STEP 3



都内全域へ展開

# 御見積書

SilentSignal Tokyo開発プロジェクト

5～10校 実証運用版アプリ開発

見積番号	SST-DEV-2026-001	発行日	2026年6月11日
対象	Silent Signal Tokyo - 沈黙格差レーダー	有効期限	発行日より30日
見積区分	概算見積 / 税別・税込併記	納期目安	契約後 7～9か月

初年度開発費 税別	107,730,000円
消費税 10%	10,770,000円
税込合計	118,500,000円
推奨予算枠	税別 8,700万円～1.32億円 / 中心値 約1.08億円
年間運用保守費	税別 3,000万円～4,500万円 / 年

本見積は、Base44デモを本番アプリへ発展させ、学校生活データを安全に取り込み、AIが小さな変化を支援サインとして提示し、教員・スクールカウンセラー等の大人が確認して支援につなぐWebアプリを対象とします。AI単独判断・診断・成績評価への利用は対象外です。

見積の要点: 画面を作るだけなら数百万円規模でも可能ですが、未成年の学校生活データ、支援記録、同意、監査ログ、5～10校の実証導入まで含めると、初年度の現実的な開発費は約1.08億円です。

言えなくとも見逃さない

見えにくい困りごとにも近づける社会へ



Silent Signal Tokyo